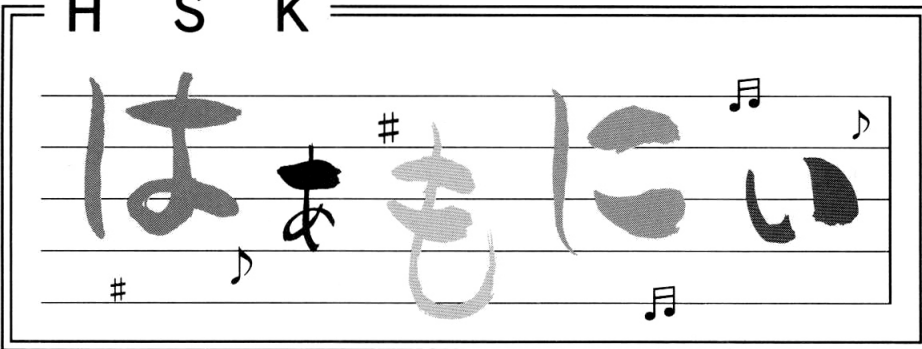


H S K



はあもにい 第12号

- ・昭和48年1月13日 第3種郵便物認可
- ・HSK通巻 397号
- ・発行 2005年4月10日
- ・発行人 北海道身体障害者団体定期刊行物協会 (HSK) 細川 久美子 〒063 札幌市西区八軒8条東5丁目4-18
- ・定価 110円
- ・編集 はあもにい編集委員会 (0144) 87-3800



白老愛泉園事業計画

昨年は白老愛泉園の創立 20 周年という節目をおえて、人間にたとえば成人として、今まで積み重ねてきた部分を磨き、さらなる進化をするために、研鑽して努めていかなければ責任が問われる時代にきています。

また、平成 15 年度よりスタートした支援費支給制度についても不安の出発より 3 年目を迎え、それなりに進んできましたが、昨年 10 月に厚生労働省が出した改革のグランドデザイン(案)(今後の障がい保健福祉策)も出ており、さらなる変化を求められております。

入所利用者については、18 歳から 80 歳までの構成であり、平均年齢については 35.7 歳、男子においては 32.4 歳、女子については 43.3 歳となっており、障害程度区分では A 区分が 82.5% B 区分が 16% C 区分が 2.5% となっており、重度の利用者が多く生活する施設となっております。

短期入所事業については、児童・成人についても 15 年度以降年々利用頻度が多くなってきており、この傾向は、増していくと思われます。

今年度在宅生活者のニーズであった、更生施設の通所部を 7 名定員で併設型の開設をするが、将来的には分場への移行を含めた計画をしなければならないと思います。

基本方針

- 利用者個人の将来ビジョンを明確にして、生活面での支援を強化する。
- 重度・高齢者を中心に生きがい、ゆとりを取り入れた生活を目指す。
- 地域生活移行にむけた研究と実践機関としてのトレーニングハウスの準備期間とする。
- 白老愛泉園の将来ビジョンや特色ある施設作りの検討。

ポプリ業計画

知的障がい者の就労の場として平成12年に開設し、授産活動として主にパン製造の他、白老町からの清掃業務委託や民間企業からの下請けなどの利用者ニーズに対応し、関係機関や家族の支援、職員が一体となって取り組み、年々販路等の拡大により安定した活動基盤を構築してきております。

平成15年度の支援費制度のスタートとともに社会福祉基礎構造改革の理念のもと利用者ニーズに応えるべく定員を15年度には7名、16年度には3名、そして今年度は4名の増員をはかり59名体制のスタートを切ることとなりました。

長年に渡って授産活動を支えてきた屋台骨である店舗の「ななかまど」が老朽化に耐えかね、関係者のご理解のもと全改築計画が施工されました。5月には新築オープンし、将来に渡り利用者の皆さんが安全で安心して通いつづけることが出来るものと期待しているところであります。合わせて、その機能を十分に発揮する上で店舗販売するものは「ななかまど」で製造し、焼きたてパンをお客様に提供できる体制を目指しております。

さらに、ポプリの開設5年を経過した節目として、利用者の日頃の作業活動に報いるためと慰労を兼ねた道外旅行の企画を実施し、社会性の研鑽と働く意欲に繋げ、充実した授産施設づくりに努めたいと考えております。

運営方針

Quality Improvement (質の改善)

- 共働 - 働くことの意義をとらえ、ともに働く喜びを持つ
- 共愛 - 愛を持って接する事で、平等な関係の心を持つ
- 共営 - 生き生き働き続ける環境保持に、営む意識を持つ

地域生活支援センター「あぷろ」事業計画

平成16年度、白老町に当法人7ヶ所目のグループホーム「ハイツ日の出」が認可を受け、利用者28名とアフターケア者2名の計30名の地域生活者を対象として支援を行ってきました。

今年度は、新たに4名(男子2名、女子2名)の新規利用者が加わり、それに伴い第8号グループホームの申請、女子2名のアフターケア住居の設置、また現住居の老朽化を考慮してのハウスの移動などを行っていきます。

支援内容については、策定した個別支援計画に基づき、巡回相談・日常生活支援・健康医療対応など、利用者のニーズに応じた支援を、世話人・関連職員と相談員が連携のもと実施して行きます。余暇活動については、潤いある地域生活の実現に向けて地域利用者自治会「青葉会」の活動や、本人たちの主体性を尊重し支援して行きます。就労支援については、就労先との連絡調整を密にし、地域生活に経済的安定と充足感が持てるようにして行きます。

将来的な地域生活移行希望についての考察を重ね、居宅支援事業のより先進的な研究等、今後の地域福祉サービスの向上にむけ発展的な対応を進めて行きます。

運営方針

- (1) 地域生活支援センター「あぷろ」の支援体制
- (2) 地域生活者に対する支援の向上
- (3) グループホーム運営に関する考察
- (4) 就労支援(一般就労、福祉的就労)及び関連施設との連携
- (5) 職員研修及び地域福祉サービス
- (6) 利用者自治会・ポプリ保護者の会との協力体制



カバンリレーゲーム1



カンパ－イ!!



あめ玉さがしゲーム!!



ゴホッゴホッ...



カバンリレーゲーム2

おっとと...

ポ
プ
リ
仲
間
の
会
新
年
会

一月十四日、登別温泉において新年会を行いました。当日は夕方まで通常どおり作業を行い、作業終了後に皆そろってバスで会場に向かいました。宴会がはじまる前に、温泉の湯で汗を流し、さっぱりして宴会の席につきました。宴会は仲間の会会長、笠谷さんのカンパイで始まり、会を盛り上げたのは何と言っても部所対抗のゲームであめ玉探しゲーム・5人リレーゲーム・ビンゴでした。どれも仲間の会の役員が事前に準備し、当日も司会進行を大変頑張っていました。あめ玉探しゲームでは、参加者が皆真っ白い顔になり会場の笑いを誘っていました。ビンゴでは1位で『白老牛の詰めあわせ』を獲得した山田樹輝さんが、景品を高く掲げ大喜びでした。

今回の新年会では伊東富士夫カメラマンと斉藤貴光カメラマンの活躍がありました。シャッターチャンスのをがすまい!と奮闘していました。これからも行事の時などに頑張ってもらいたいと思います。

(斉藤)